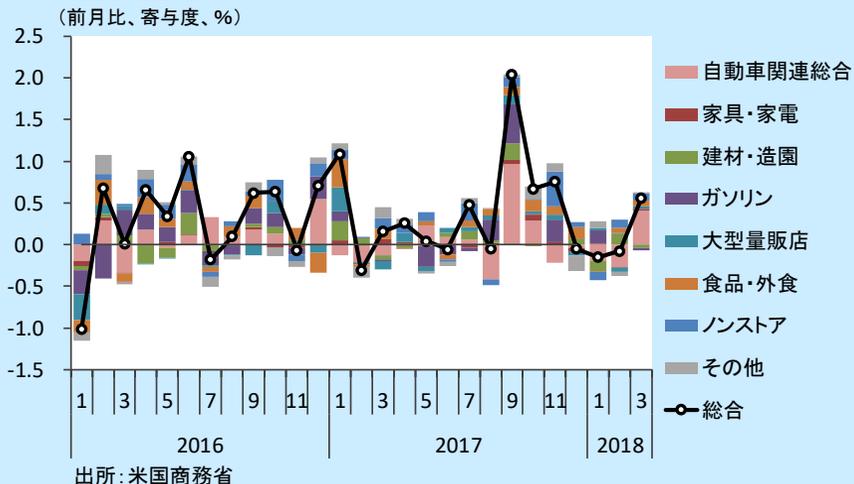


# 米国：小売売上高（2018年3月）

## —小売売上高は4ヶ月ぶりの増加—

*MRI Daily Economic Points*  
April 17, 2018

図表1 小売売上高 項目別 寄与度

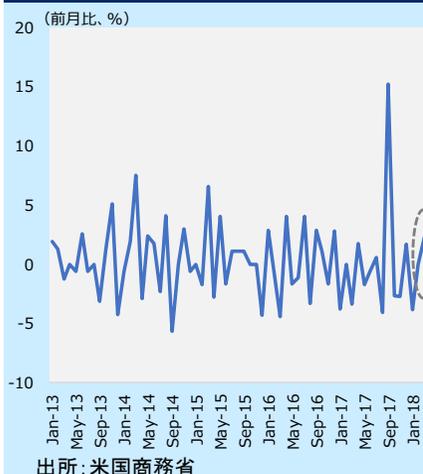


評価ポイント

### 今回の結果

- 18年3月の米小売売上高(4/16日公表)は、前月比+0.6%と4ヶ月ぶりに上昇に転じた。自動車やガソリン、建材、食品サービスを除いたコア売上高も同+0.4%と増加した。
- 内訳をみると、主要13品目のうち8品目が前月から増加(図表2)。自動車販売台数の増加を受け、自動車関連(同+2.0%)が大幅に伸びた(図表2)ほか、健康・医療(同+1.4%)やノンストア(同+0.8%)などがプラスに寄与した。
- 4半期ベースでみると、1-3月期の小売売上高(期間平均)は、前期比+0.2%と、17年10-12月期(同+2.5%)を下回る結果となった。

図表2 自動車販売台数



図表3 18年1月以降の主要株式指数



### 基調判断と今後の流れ

- 消費の基調は、底堅い。17年12月以降続いていた軟調な消費の背景には、①昨年秋にかけて大幅に増加した消費の反動減や②確定申告後の還付が遅れたことがあったとみられている。
- 先行きは、回復基調を維持すると見込む。依然として極めて良好な雇用環境が、消費を下支えするだろう。
- 下振れリスクは、トランプ政権の保護主義的な動きによる影響が考えられる。①保護主義的な動きに伴う株価の軟調(図表3)が、マインド悪化や逆資産効果につながる場合などには、消費に悪影響が及ぶ。また、②輸入関税の引き上げが、国内物価の上昇につながった場合には、幅広い所得層の消費が抑制され得る。特に今後、関税の引き上げ対象に中国製の消費財なども加わった場合には、輸入品の消費割合が高い低所得者層を中心に消費が鈍化しかねない。